

令和3年度
池田中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 学び続ける力(学びのエンジン)を育成する。
- 言語活動の充実が図られた授業展開
- 「授業のねらいの提示」「振り返りの時間の設定」により、学習への主体性を高め、理解度の定着を図る。

学力向上検討委員会構成

- 委員
中上校長、岡本教頭、元木教務(技術家庭・美術)、竹谷(3年主)、尾形(2年主・理科)、峰友(1年主・英語)、平尾(国語)、堀江(数学)、久保(社会)、大畑(音楽)、徳善(保健体育)、為実(特別支援)
- 学力向上推進員
堀江直美(数学)

校長

中上 齊

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取り組み状況の把握について】

(1)知識・技能の習得

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子どもの姿)	具体的方策(教員の取り組み)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目で素直な生徒が多く、落ち着いた態度で授業に取り組んでいるので、学習内容もよく理解できている。 ●家庭学習の充実が図れていない。せっかく理解した学習内容も定着しきれていない生徒がいる。	・基礎的・基本的な知識・技能が確実に身についている生徒。 ・望ましい家庭学習の習慣と学習方法が身についている生徒。	・連絡帳の宿題欄を活用し、計画的に家庭学習が進められるよう指導する。 ・家庭での学習時間の確保が難しい生徒は、保護者と連携しながら望ましい学習習慣を身に付けさせる。 ・自習教室を開設し、基礎学力の定着を図る。 ・1日1ページの自主勉強を課し、ノートを毎日確認する。必要な生徒には個別に指導する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子どもの姿)	具体的方策(教員の取り組み)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○グループ活動が班員で協力し思考を深める学習活動として、積極的に前向きに行っている。 ●文末まで正しく言い切る、また論理的な思考を表記するなどの表現活動が上手に行っていない生徒がいる。	・考えることを面倒くさがない生徒。考えることを楽しむ生徒。 ・判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることができる生徒。	・さまざまな資料や文章に触れさせ、内容的に理解させるとともに、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べる機会を、グループ活動を十分活用するなどし多く設ける。 ・授業の中で、「書かす」「言わせる」場面設定を多く設ける。また、考えのもと(根拠)を大切に(言わせる)ため、発問の工夫をしていく。 ・タブレットを効果的に活用し、学びの幅を広げ理解を深める工夫をする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子どもの姿)	具体的方策(教員の取り組み)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○どの教科の授業にも落ち着いて取り組むことができ、教師の話聞き理解しようという姿勢が見られる。 ●授業中、発言が消極的な生徒がいる。	・目標を設定して意欲的に取り組む生徒。 ・積極的に手を挙げ、進んで発表する生徒。 ・学んだことを自分の生活や生き方につなげる生徒。	・学び合いの機会を多く取り入れる。 ・学習目標と学習の見通しを明確にし、何をどのようにして学んでいるかを生徒が常に意識できるようにする。 ・わかる喜びを増やすと同時に、ICTを活用するなど生徒の興味・関心を高める工夫をする。 ・読み聞かせや教師の範読、追い読みなどを行い、耳から聞くことに集中させ、「素直に聞く力」を育てる。			

令和3

